

## 生活科

### 第2学年「ときどき わくわく まちたんけん」


#### I 本時までの経緯

子どもたちは登下校や遊びの中から、大野の自然や季節の移り変わりに気がつくことができています。そこで、単元の導入では自分の知っている「大野のおすすめの場所」をグループの友達と教え合うこととした。友達の話聞き、グループ毎にどこに行ってみたいか話し合うことで、行ってみたい場所や会ってみたい人を決めることとした。探検では、5グループそれぞれに2・3か所の行きたい場所に行き、そこで働く人々へ聞いてみたいこと〈インタビュー〉を準備して出発した。どのグループも安全に気をつけて楽しく探検をすることができた。探検から帰ってきた子どもたちは、探検に行った自分たちのグループしか知らないことを早くみんなに教えたいという気持ちを抱いている。

#### II 本時のねらい

探検で見つけたものや場所、出会った人のことなどを友だちと伝え合い、地域には様々な場所があり、そこには多様な人々が生活していたり、様々な仕事に携わっている人がいたりすることに気付くことができる。

#### III 本時（7/47時間）

学習活動・内容	手立てに関する実際
<p>1 まち探検の様子を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>たんけんで見つけた大のひみつをつたえあおう。</p>	<p>解決に向けて動き出したくなる教材提示の工夫</p>  <p>導入において、探検の時の写真を提示することにより、子どもたちは探検した時にタイムスリップすることができた。また、他のグループにとっては初めて見る写真なので、「何をしているのかな？」という新たな疑問を起こすことができた。</p>

楽しかった探検を思い出し、「早く話したい・伝えたい」という意欲が高まっていた。

2 大野のひみつを伝え合う。

見取りを生かした授業展開の工夫



3 大野のひみつについて話し合う。

子どもたちは、一人一つの伝えたいことを発表するが、前時までにかいた「探検で分かったこと」のカードから、新たな気づきが生まれている子どもを見取り、意図的指名をしていった。

子どもたち一人一人の発表をT2が分類して板書し、見つけてきたたくさんのもを、新たな視点で見ることができるようにした。

TTによる指導でT2が板書を行ったことにより、T1は発表する子どもの見取りや聞いている児童の見取りに集中することができ、子ども達の話し合いをつないでいくことができた。

4 本時の活動を振り返り、次時の活動への意欲を高める。

解決に向けて動き出したくなる教材提示の工夫



終末では、子どもたちの発表からは出てこなかったものについて写真を提示し、黒板のどのなかまに入るかを問いかけた。

子どもたちは探検で見つけたものをもっと分類してみたい、みんなにもっと教えたいという意欲を高めていた。



まちたんけんをしたり、  
友だちの見つけたひみつを聞いたりして、  
じぶんのすんでいる「大の」について  
どう思いましたか。

おれが  
たのしくて  
へいわです。大の  
町です。

まちたんけんをしたり、  
友だちの見つけたひみつを聞いたりして、  
じぶんのすんでいる「大の」について  
どう思いましたか。

大の人は  
みんなやさしい人が  
り。まちたんけんでも  
くして村人が  
る。

まちたんけんをしたり、  
友だちの見つけたひみつを聞いたりして、  
じぶんのすんでいる「大の」について  
どう思いましたか。

大のの町は、  
いいまち。大のの町は  
せんがら、

「大野のひみつ」を共有しててきた本時の  
終末に振り返りをしたところ、大野の  
町について改めて見直した記述が見られ  
た。

せんがら、  
あんがら、  
おれが  
せんがら、  
おれが

日本の中へ  
おれが

#### IV 大切にしたい点と改善点

## 1 大切にしたい点

- 子どもの表情やしぐさを見取っての発問により、子どもの内面（感じ方や考え方）を引き出すことができる。
- 話し言葉（聴覚情報）ばかりではなく、写真や板書（視覚情報）を用いての授業展開により、情報の共有化が図れる。
- 多様な探検先に行くことができるよう設定することで、後の学習において感じ方や気づきの多様さに触れさせることができる。

## 2 改善点

- 年間の単元構想の中での本時の位置付けや意味合いをしっかり持つとともに、本時のねらいの精選を図ることが大切であった。
- 様々な探検先で色々な気づきをしてきたのであれば、一人一人に合った多様な発表形式を認めていくとよかった。
- 子どもの知性は、多様であるので、子どもを見取る方法も発言やワークシートだけでなく、他にもあってよかった。
- 子どもの思いが具現されていく、時間的余裕のある単元構想の自校化。

## 生活科

### 第2学年「うごくうごくわたしのおもちゃ」

#### I 本時までの経緯

動くおもちゃを工夫してつくり、その遊び方を考えたことがある児童は、2割にも満たない。そのため、まず最初におもりで動く『ころころころん』を全員でつくった。自分がつくったおもちゃが動いたことに達成感を得ることができた。その中で児童は、おもり、紙の余裕の持たせ方、紙の固さ、飾りの工夫のポイントに気付き、友だちと斜面を転がす競争から、速く転がるものに改良することができた。

次につくったパッチングエルでは、だれが高く跳ぶか、そのためにはどこを変えたらよいか考えるようになった。ゴムの数・太さ、紙の固さ・大きさ、切り込み、とばし方の工夫のポイントを見つけ、ゴムと紙の強度の関係に気付く児童もいた。また、友だちと見せ合ったり、跳ばないことについてアドバイスしたりする姿が見られた。


その他の参考作品は、いつでも児童が休み時間に遊べるようにしておき、全部試して、おもしろいと思えるおもちゃで遊べるようにした。すると、動く仕組みや素材、遊び方に目を向けられるようになってきた。

自分のつくるおもちゃを決め、おもちゃの種類ごとにグループを組んだ。授業の終わりには、工夫や気付き、友だちとのかかわりについて振り返らせるようにした。いくつかのおもちゃに取り組んできたことで、自分のおもちゃが、よりよいものにパワーアップしていくことを実感するとともに、自分でつくれたという自信も生まれ、今度は1年生や園児とおもちゃ屋さんを開いて遊びたいという思いが高まってきている。

#### II 本時のねらい

自分のおもちゃを用いて、さらに楽しく遊ぶことができるようにする方法を考えて、試したり、改良したりすることができる。

#### III 本時（13/21時間）

学習活動・内容	手立てに関する実際
<p>1 前時のおもちゃづくりを振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>もっと〇〇〇なおもちゃをかんせいさせよう。</p>	<p>見取りを生かした称賛や提案の工夫</p>  <p>前時の活動の様子を振り返る手掛かりとして、ビデオでの</p>

提示を行った。『とことこカメ』をつくっている様子に合わせて、前時の生活科カードに書かれていたもっとカメラしくなるように飾りを工夫したいと〇くんは発表した。また、各グループの活動を想起した後、『ふくろロケット』の空気が抜けて飛ばない様子や〇くんの下向きに飛んで上手くいかなかった発表があった。〇くんは、おもりとはねのバランスを改良して、遠くまで飛ばしたいというめあてを立てた。

『ロケットボン』グループは、改良の余地が少ないことから、とばし方を工夫して、「もっと遠くに飛ばしたい」とめあてを立てた。前時のカードやT・Tによる少人数の見取りから、活動の途中でT<sub>2</sub>が、飾りを工夫できることを提案した。

2 グループに分かれて、改良に取り組む。

(1) 改善点を考えて、工夫する。

#### 多様な価値観が交わされる授業展開の工夫



ゴムが切れた、空気が抜けた等の児童は、作り直す活動に集中することになり、児童同士のかかわりが少なくなってしまう。

『ヨットカー』が曲がって走り困っていた△さんにアドバイスをしてくれた児童を呼んで来て、再度タイヤを大きくしたらよいのではないかと教えてもらうことができた。また、同じグループの児童からも教わり、改良に取り組んだ。

同じグループの友だちの様子を真似て、改良する姿は見られたが、競争してみる姿や聞きに行く姿が、今までより少なくなってしまう。教師の働きかけ（一緒に飛ばす、競争させる、立ち歩いて見て来させる、教師を介して交流を図る等）が課題となった。

(2) 試したり、改良したりしたことをカードに記入し、発表する。

#### 見取りを生かした称賛や提案の工夫



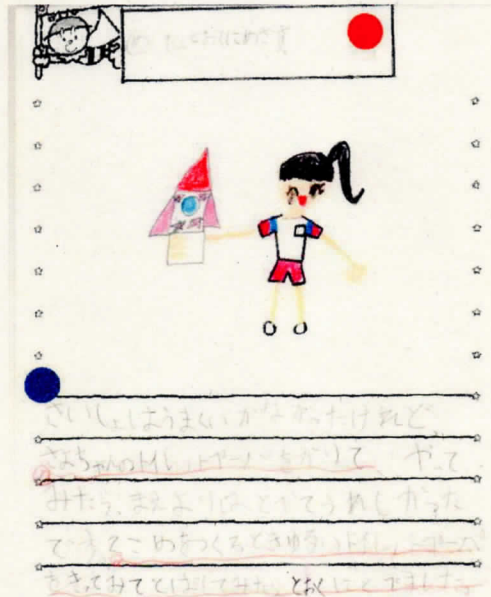
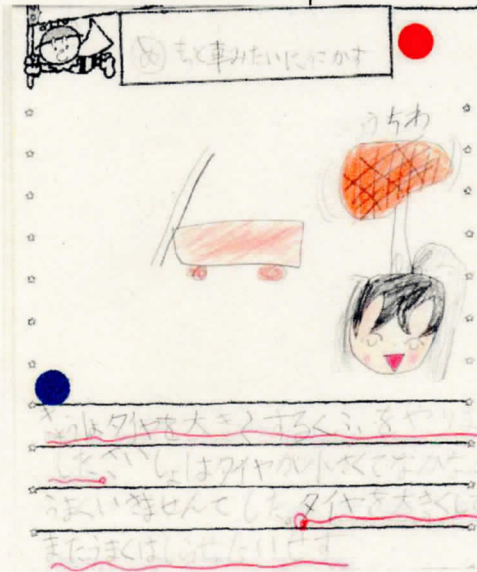
めあてに沿った改良が行われているときには赤いシール、友だちとのかかわりによって改良に取り組んでいるときは、青シールを貼っていった。それらを全体での発表において、各グループから1名の意図的指名に生かした。

3 本時の活動を振り返り、次時の活動につなぐ。

多様な価値観が交わされる授業展開の工夫



カードに記入したこと（工夫したこと、友だちに教えてもらったこと、うまくいかなかったこと、次にやってみたいこと）とおもちゃの動きをもとに発表を聞き、めあてに沿って



改良できたことをお互いに認め合うことができた。『ふくろロケット』の〇くんは、前につけるおもりと後ろにつけるはねの重さを同じにしたら、まっすぐ遠くに飛んだと活動を振り返った。それぞれの発表から出てきた工夫のポイントを掲示物につけ加えて行き、次時に生かすようにしている。また、おもちゃの遊び方を考える次時を展開する。

#### IV 大切にしていきたい点と改善点

##### 1 大切にしていきたい点

- 子どもの思いは刻々と変化するものであり、教師はその変化に柔軟に対応しながら授業展開していく必要がある。
- 個々にもつめあてが異なる場合、めあてとして「もっと〇〇〇うごくおもちゃをつくろう」というように「〇〇〇」とするのもよい。
- 同じおもちゃをつくっている者同士でグループを組んだことで、互いに競い合ったり教え合ったりする場面が出てきていた。
- おもちゃを工夫したいという点に気付くには、今回のように試す時間、試す場所が必要である。
- ワークシートに書く活動によって、これまでの学びを振り返り、自分がどんなことをやってきたか意識化するのに役立っていた。

##### 2 改善点

- 終末場面で、本時にあった気付きを共有させることがあったが、子どもからの具体的な気付きを引き出すことにプラスして、少し抽象度を上げた「コツ」「ポイント」「ワザ」などとしてまとめると、別の単元でも活用できる気付きとなっていく。
- 子ども同士をかかわらせ気付きを生ませたい場合、その目的に合う手立てで教師が働きかけていくようにする。
- 導入場面で、おもちゃの改良点について取り上げたので、終末場面でもそれらの点について振り返り整合を図ってもよかった。
- 子どもの気付きの質の変容というものを、今後も姿から見取っていく。
- 子ども同士のかかわりを求めるというとき、友だちにかかわり始めるための話しかけ方の習得も必要である。「ちょっと見せて」「ちょっと教えて」「手伝って」「ねえねえ」「どうしたらいいと思う？」など。

